

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成へ。

- 1 学ぶ力をつける……生徒の学ぶ意欲を向上させて確かな学力を身につける。
- 2 人間力をつける……知・徳・体のバランスのとれた人間性を育み、人間力をつける。
- 3 地域から信頼される学校をつくり、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
- 4 学校の組織力の向上と活性化

2 中期的目標

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成のために

1. 学ぶ力をつける

- (1) 生徒の学ぶ意欲を向上させ確かな学力を身につけるために、正課授業の集中度を高め、生徒の授業満足度が高い授業が行えるように全教員の授業力の向上を組織的に取り組む。
- (2) 大職員室を活用し、訪れた生徒が目的教科以外の教員の指導も受けやすい環境をつくる。
- (3) 3年間を見通した学習指導計画、進路指導計画を今一度構築し、生徒の学習意欲、進路意欲の向上を図り、生徒の第一希望の進路実現に繋げる。
- (4) 基礎的学力の強化 平成26年度から導入した朝学（総合基礎）の更なる充実を図り、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努める。また、1学期終了段階で各教科のやり直し補講等を行い、2学期以降の随時・個別の指導や生徒の家庭学習活動を支援・強化する。
- (5) 放課後講習の組織化と拡大
自習室を整備したことを踏まえ、放課後講習の組織化を進め放課後の学習機会を確保・拡大していく。
- (6) 長期休業期間講習の実施。
- (7) 平成27年度入学生から専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース [文系] とグローバルスタディサイエンスコース [理系]）制を導入することにより、コース生はもちろん、コース生以外の生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、国公立大学や「関関同立」など難関私大への進路希望の実現に寄与し、国公立50名以上「関関同立」250名以上の合格を目標とする。
- (8) 平成27年度「学校経営推進費」により導入した、ICT機器である電子黒板とタブレット型端末を有効に使用することで、「よりわかりやすい授業」を行い生徒の学力（特に、英語を中心としたコミュニケーション能力）の向上に資する。また、外部講師による希望生徒向け英検対策講座を導入することで、より英語の力を向上させる。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価の75%を更に向上させ今年度には80%を維持する。

2. 人間力をつける

- (1) 人間関係構築の第一歩として、あいさつがさらにしっかりと行われる学校をめざし、「あいさつ運動」を実施する。
- (2) 教育相談体制の充実。「生徒一人ひとりを大切に」本校の教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的にを行い生徒相談機能を高める。
- (3) 正課授業や部活動その他の機会において地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。
- (4) 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。
- (5) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし更に有効有意な関係を構築する。
- (6) (5)の進展に合わせて、自治会活動の全・定連携をめざし、全定生徒の交流行事等を立案実施する。

※学校教育自己診断におけるそれぞれの評価活動を点検し、生徒の人間力を高める計画の立案と実行を図る。
(進路相談・教育相談への生徒評価及び自分の成長を実感する項目で、5%上昇をめざす)

3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

- (1) オール桜塚の体制でOB、地域の有志と連携した事業を展開する。
- (2) 多文化社会を実感・体験するため国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を促進する。
- (3) 豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携をさらに充実させ、生徒の社会的経験知の向上を図り、進路実現に寄与するキャリア教育にも繋げる。
- (4) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。
- (5) 広報活動を充実させる。HPを更に見やすく、魅力的なものにし、更新を頻繁に行う。また、中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。

※学校教育自己診断において生徒の自己評価の低かった地域活動をさらに周知し、生徒の力に替え、地域の信頼の一層の獲得を図る。現在の70%を維持する。

4. グローバルリーダーの育成

- (1) 上記3を基本に国際社会で通用する人材を育成するため、地域の伝統や文化に対する理解はもとより、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。世界の様々な国からの長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
- (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。その為に、海外語学研修、国際交流に努め生徒の国際的な視野を育むとともに、授業に言語活動を積極的に取り入れ、英検やTOEFL等の資格取得を進めることに取り組む。
- (3) 「めざす学校像」を実現させる為に、平成27年度入学生から専門コース制を導入することにより、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。

※今年度以降も英語圏への海外語学研修を継続して実施し、アジア圏への異文化研修も積極的に実施する。修学旅行も可能な限り海外に行くことをすすめる。

5. 学校の組織力の向上と活性化

- (1) PDCAサイクルにより学校経営を確立し、組織力の向上を図り、学校運営における組織的な取り組みを更に進める。
ア 運営委員会のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
イ 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行うために、学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を行う。
ウ 平成27年度入学生から専門コースを設置した。今後、コース制PTや運営委員会等を中心に専門コースの更なる充実・改善を図る。
エ 様々な分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。

※内規等諸規定の整理と改善を行う。

※専門コースに新しく設置する専門教科・科目の研究を深め、シラバスの更なる充実を努める。

6. 不祥事発生の未然防止を図るために、一層の取り組みを進める。

- (1) 不祥事防止に関する校内研修を実施し、問題意識を共有する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学ぶ力	<p>(1) 授業力の向上</p> <p>ア 授業改善のための諸施策を行う</p> <p>イ 総合基礎(朝学)の充実</p> <p>ウ 専門コースの設置</p>	<p>ア 昨年度設置した「授業力向上等検討委員会」で、研究授業(電子黒板等 ICT 機器を取り入れた研究授業も含む)や教員相互の授業見学等の実施計画等を作り実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板やタブレット型端末等 ICT 機器を有効に使用することで、「よりわかりやすい授業」を行い生徒の学力(特に、英語を中心としたコミュニケーション能力)の向上に資する。 授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。また、結果に基づき各教科等でも改善策等を協議する。 <p>イ 昨年度1年間の結果に基づき、更に学校をあげて組織的に取り組み、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努める。</p> <p>ウ 専門コースを設置し、学力の更なる効果的な向上を図る。1年次に勉強合宿を実施するとともに各教科の放課後講習等を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季や冬季の長期休業時にも講習を組織的に計画し実施する。 	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度4項目平均で5%向上(平成26年度68%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 同上(平成26年度68%) 授業アンケートの1回目と2回目の比較において全項目での上昇 <p>イ 英検・漢検等の資格取得者数と英語能力判定テストや確認テスト等での向上</p> <p>ウ 生徒アンケートを実施(満足度90%以上を維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> センター試験の各科目平均点上昇、受験率向上 	
2 人間力	<p>(1) 人間力をつける</p> <p>ア 「あいさつ運動」の推進及び地域貢献活動等への参画</p> <p>イ 教育相談体制の充実</p> <p>ウ 部活動の充実</p> <p>エ 定時制との関係の充実</p>	<p>ア 学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。また、様々な機会を捉えて地域貢献活動等に積極的に参加する。</p> <p>イ 「生徒一人ひとりを大切に」本校の教育を推進し、生徒相談機能を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> きめ細かく丁寧でカウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。 <p>ウ 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p> <p>エ 教職員が協力することで同じ施設を共有する仲間意識や互いを思いやりあう意識を養っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば、全定相互の授業見学や共同の消火訓練等の実施。また、自治会活動の全定連携も視野に入れ、全定生徒の交流行事等も検討する。 	<p>ア 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率5%向上(平成26年度67%)</p> <p>イ 学校教育自己診断結果における関連2項目での肯定率平均3%向上(平成26年度53%)</p> <p>ウ 学校教育自己診断関連項目75%以上(平成26年度75%)</p> <p>エ 教職員向け学校教育自己診断に定時制との関係に関する質問を設け、肯定的回答50%以上をめざす。(平成26年度48%)</p>	
3 地域連携とグローバルリーダーの育成	<p>(1) 多文化社会に生きるグローバルリーダーの育成のために</p> <p>ア 国際理解と人権に係る豊中市各機関との連携</p> <p>イ 大学等との連携</p> <p>ウ オール桜塚による支援</p> <p>(2) グローバルリーダーの育成</p> <p>(3) 広報活動の充実</p>	<p>(1) ア 多文化社会に生きる力を育成する為に、豊中市等との連携を深め国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊中市各部署、社会福祉協議会、国際交流協会等、豊中市各機関との連携事業を引続き推進する。 <p>イ 大阪音楽大学との提携活動の継続発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪大学、関西大学との連携活動の継続 キャリア教育と進路実現に繋がる新たな連携模索 <p>ウ 生徒、OB、教員が一体となった地域連携を進める(例えば、枝垂れ桜の一般公開)</p> <p>(2) 国際交流を積極的に推進し、英語圏への語学研修を引続き実施する。加えてアジア圏への異文化研修や可能な限り海外修学旅行をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門コース制の導入により英語と理数系科目を強化し、学力の底上げを図る。 外部講師による希望生徒向け英検対策講座を導入することで、より英語の力を向上させる。 <p>(3) HPで生徒の活動や地域連携事業の取り組みなどを公開していく。また、中学校訪問や学校説明会を開催して広報を積極的に行う。</p>	<p>(1) ア 生徒アンケート実施し満足度90%以上維持(平成26年度92%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断における関連項目での肯定的回答90%以上(平成26年度94%) <p>イ 生徒アンケート実施(満足度90%以上を維持)</p> <p>ウ 生徒アンケート実施し満足度90%以上を維持(平成26年度94%)</p> <p>(2) 海外語学・異文化研修、海外修学旅行をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英検の校内実施とともに英検準2級以上の資格取得数を20%以上増加させる。 <p>(3) HPを月に5回以上更新する。学校説明会参加者数等による。</p>	
4 学校の組織力の向上と活性化	<p>(1) PDCA サイクルによる学校経営の確立</p> <p>ア 本校の課題に対する基本的な方向性を確立する</p> <p>イ 内規等の整理・改善</p> <p>ウ 専門教科・科目の研究を行う</p> <p>エ 様々な分掌・委員会の活性化</p> <p>オ 不祥事発生の未然防止を図る</p>	<p>ア 運営委員会のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。</p> <p>イ 学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を引き続き行う。</p> <p>ウ 専門コースに新しく設置する専門教科・科目の研究を深め、シラバスの更なる充実に努める。</p> <p>エ 様々な分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。</p> <p>オ 教職員の服務規律の更なる徹底の為に、校内研修を実施し問題意識を共有する。</p>	<p>ア 運営委員会のメンバーの学校経営計画実現に向けて寄与する度合いと教員向け学校教育自己診断関連項目の肯定率3%向上(平成26年度63%)</p> <p>イ 内規等の整理と改善をできるだけ進める。</p> <p>ウ 専門教科・科目のシラバスの充実に努める。</p> <p>エ 必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。</p> <p>オ 校内研修において班別討議を継続実施する。</p>	